



和牛子牛規格 向上運動について

生体 50 貫 4 万円を目標に販売しよう

岡山県の和牛は、古い伝統と、恵まれた環境に育ち、そのうえに徹底した登録により、形質、能力共に優れ、本県畜産の大宗をなし、全国第一の和牛生産県とし、その成果は、先般の第 18 回中国連合畜産共進会において他県に比較し圧倒的な好成績をおさめ、確固たる地位を保っております。

しかし本県和牛の販売価格についてみるに、他県に比して、余りにも格差が大きいのは、和牛生産県として憂慮すべき問題であります。

このことは、セリ市上場牛が一般的に日浅い発育不良の牛が多く、規格が不統一であり顧客の好みに合っていないためであると考えます。

最近の和牛は、食肉需要の増大に伴なって、これまでの『役肉用牛』から『肉用牛』へとその利用方向が大きく変環することを強く要請されてまいりました。

したがってこれからの和牛は、時代に要求される用畜（肉畜）として、技術的にも、またその販売についても旧態の殻を脱して和牛の近代化を図らなくてはならないと思います。

本会としては、国、県の和牛振興計画にそって、この新しい時代に即応する、和牛の経済性の向上と、価格高揚を講ずるために『和牛子牛規格向上運動』を展開しており、先ず生産犢の規格向上統一と、商品的価値の改善を具体的にすすめ、市場価値をたかめる所存であります。

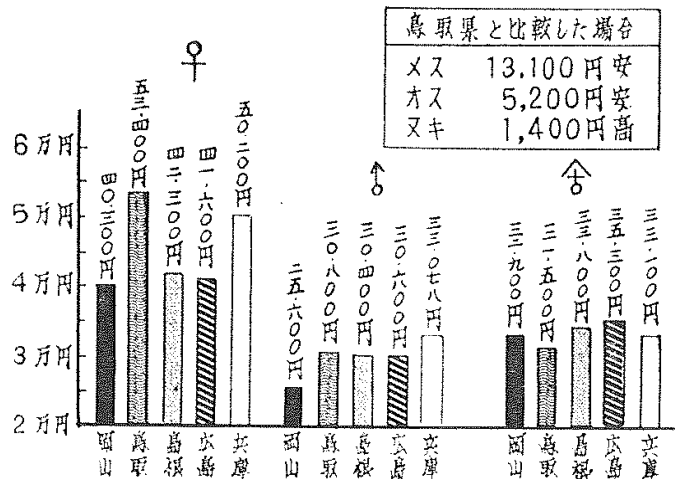
次に『和牛子牛規格向上運動実施要綱』ならびに昨年度セリ市場に上場した子牛の規格比率、販売上の問題点及び改善対策、仔牛経済性の向上策等につき簡単に申述べてみることにいたします。

昭和 37 年度 近県子牛価格の比較

この比較表を見ても、余りにも格差が大きいのに驚かされます。とくに鳥取県との格差は極端であり、鳥取県の家畜市場を見学してみても、出場牛の体形、資質及び規格がよく斉一化され、それに鳥取牛は体上線が美しく、発育のよい牛が揃っています。が、これに引換えて岡山牛は、体形、資質はよいが、体格が不揃いであります。

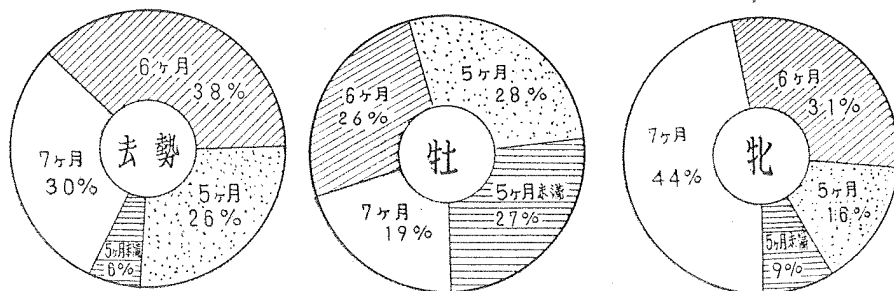
とくに和牛産地と言われていた地帯である程古い飼養習慣が強く、極度に発育不良の小格の牛、あるいは月令の若いものが多い傾向にあり、したがってお客の好みに合う規格牛が全頭数の約 3 分の 1 程度しかおらない現況であります。このことは、本県子牛が如何に時代的要求に即していないかを示しており、また、子牛の商品的価値が低いことをこの比較表が端的に物語っています。

昭和37年度近県子牛価格比較表



昭和37年度セリ市場に 上場した子牛の規格の比率

昭和37年にセリ市に上場した子牛の月令を円グラフに示すと次のようになる。約4分の1が5ヶ月以下の月浅い牛で、改善の要あり55%が5ヶ月以下で無意識にセリ市に上場されているようである。ヌキは飼育者も肉畜としての意識もあり、牝に近い月令の進んだ牛が多い。



を定めて生産検査時等において、飼育管理及び出荷につき具体的に指導を行ない、お客に好まれる規格に揃え、商品的価値を高める。

規格目標

生後6～8ヵ月とし生体中 188kg (50 貫) 胸囲約 130cm、体高約 1m (3.3 尺) とする。

4 生産検査は各関係機関の協力を得て、子牛のセリ市出荷に対しての飼育管理の指導を行う。特に哺乳中の子牛の栄養の改善と商品価値を高めるため、県の指導機関の協力により作った『和牛子牛完全配合飼料』の利用の普及推進を図る。

また、生産検査において、子牛の共進会を開催し、優秀子牛に対しては、表彰し額章を与えて、生産者の意欲の高揚を図る。

4、表彰施策

(1) 本運動の実施に当り、特別功績のあったと認められる農協又は、関係者に対し、会長はこれを表彰することが出来る。

(2) この運動を更に具体的に推進するためセリ市場において、最高価格で販売したものを左記により表彰する。

記

(イ) 表彰資格牛はセリ当日まで生後 10 ヶ月未満のもので売買の成立したものとする。

(ロ) 表彰はメス及びオス又は去勢牛各 1 点宛とする。

和牛子牛規格向上運動実施要綱

年次別	計画表	目標価格	上場頭数	値上り価格
基準年次(昭和三十七年度)		三五、一八〇円	二九、〇〇頭	二、八〇円
第一年次(昭和三十八年度)		三八、〇〇円	三〇、〇〇頭	二、八〇円
第二年次(昭和三十九年度)		四〇、〇〇円	三三、〇〇頭	二、八〇円
第三年次(昭和四〇年度)		四二、〇〇円	三七、〇〇頭	二、八〇円

1、目的

この事業は市場に上場する子牛の規格の斉一向上を図り、販売価格の高揚と農家所得の増大を期し、和牛の飛躍的振興に資するを目的とする。

2、目標

この運動は昭和 38 年度を初年度とし、次の如く三ヵ年計画で完成するものとする。

これにより基準年の昭和 37 年度子牛所得 10 億 5 千万円を昭和 40 年には、15 億 5 千万 5 億 4 百万円まで引上げ 5 億 4 百万円の所得増を目標とする。

3、推進方法

1 この事業の推進は、県、和牛試験場、農林事務所、地方農業改良普及所、家畜保健衛生所等の関係機関の協力をえて本会の会員農協と密接な連繫をもちつつ事業の計画推進を行う。

2 県段階においては、県及び関係機関の参画を得て『推進本部』をおき、また群市段階においては、本会支所を直接事業の推進母体として地区内関係機関の参加を得て『地区推進協議会』を結成し事業の計画推進を図る。

3 和牛子牛の規格目標

販売上の問題点及び改善対策

問題点	改善対策
① 一般に上場牛の体積が小さい。	① 子牛の規格向上運動実施要綱に基づきこの趣旨のPRと指導の徹底を図る
② 1日当りの上場頭数が少ない。	② 1日当りの上場数は可及的200～350頭まで引上げる。
③ 県外特に東北、北陸地方に対するPRが不徹底である。	③ 会においてもこの徹底を図ると共に県、登録協会、畜産会等相携えて実施する。 イ、東北、北海道地区に販売員の駐在、若しくは単独でも顧客誘致に出張する等、真げんに取組んで貰うよう県に要望。 ロ、会においても導入地の末端農協にまでPRを徹底する。
④ 購買牛の取扱い、事務処理、輸送について	④ 本件については、市場開設のはん雑時ではあるが職員は事務的に流れることなく、常に親切をモットーとし、一旦来場した顧客は逃さないようにする。

岡山畜産便り 1963.12

- (ハ) 当日の最高価格が2点以上の場合は、月令の若いもの又は血統検査の上優秀なものから順位を決定する。
- (ニ) 表彰は毎日セリ終了5日以内に別紙様式一により実績報告書を一部会長宛提出するものとする。